

平成23年3月11日東北地方太平洋沖地震発生  
日本国内観測至上最大 M9.0を記録



津波による壊滅状態の地区のなかで一軒だけ残る家は  
近代ホームグループでも使用しているFP工法の家でした



近代ホームグループでも実際に使っているFP工法。同じ工法で家を造っている岩手県のサトコンホームさんから画像の提供をいただきました。

FPパネルはウレタンを2tの力で圧縮したものです。ウレタンは水に強くパネル自体が耐力壁の役目を果たしています。

「OK」の文字は倒壊の危険性がなく住んでもいいという証明なのです。

# 壁の汚れで押し寄せた波の高さがわかります



地震発生時、ご主人様は尋常じゃない揺れにすぐさま奥様を車に乗せ安全な場所へ向かったそうです。お住まいは被害を受けましたが、お客様がご無事であったことが何よりです。また、ご主人様は改めて「FPの家」の素晴らしさ（耐震性）を身をもって感じられたとのこと。このような形で家の強さが立証されるのは正直複雑な気持ちですが、これだけの甚大な被害のなか、家が残っていることに驚くばかりです。

自然災害を防ぐことは出来ません。たくさんの命や家も奪ってしまいます。そんな時住む家だけでもあったらどんなに安心でしょうか。津波によっていろいろなものがなくなってしまいました。形あるものだけでなく思い出や安心感もなくなってしまいました。これから国を挙げて復興していかなくてははいけません。私たち住まいを提供する仕事をしている立場からは

「安心して住める家」「命を守る家」を一人でも多くの方に紹介していきたいと思えます。